

就職活動を振り返って

『すべての経験が自分の力になる』

シスメックス株式会社

システムエンジニアリング本部ソフトウェア技術グループ

中村 祐貴子 (M63)

はじめに、神戸大学工学振興会 (KTC) をはじめとした関係者の皆様に、この度の寄稿の機会を頂戴しましたことを感謝申し上げます。神戸大学在学中の経験を振り返りながら、僭越ではございますが、私が大切にしていることをお伝えできればと思います。私は機械工学専攻にてバイオメカニクスを学び、2017年3月に修士課程を修了しました。その後、シスメックス株式会社に入社し、現在、尿や血液中の成分を分析する装置の開発をしている5年目のエンジニアです。

ここからは私自身のことを振り返りつつ、話を進めさせていただきます。私がバイオメカニクスに興味を持ったのは高校生の頃です。自分自身が病気を経験しリハビリをする中で、人間の身体の動きが力学 (バイオメカニクス) で考えられることを教わりました。その面白さに惹かれ、もっと知りたいと、バイオメカニクスを学べる工学部機械工学科に入学しました。とは言うものの、入学後は勉強そっちのけでサークル活動にアルバイトにと全力で遊び続け、お世辞にも優秀な学生ではありませんでした。期末テスト前にだけ勉強のスイッチが入り、ノートやレポート課題を見せてくれる同期や、私の質問攻めに答えてくれる Teaching Assistant の先輩の優しさに助けられ、無事に単位を取得。そしてまた全力で遊ぶという生活を2年ほどしていました。そんな私でしたが、何とか進級し、研究室に配属されました。研究室では、骨折後の股関節・歩行のバイオメカニクスに関する研究を行うことになりました。先述の通り入学前から興味あるテーマだったことに加え、理論 (講義で習うような力学) を実際のモノ (ここでは人間の歩行) に応用していく面白さに取りつかれ、すぐに研究に夢中になりました。

学ぶ環境には、とても恵まれました。医療工学コースに所属していたため、機械工学の講義だけでなく、情報知能工学や保健学科の講義もあり、学科の枠にとらわれず、医療工学に必要な知見を広げられました。また、論文や学会発表などを通じ、自分の考えを述べたり、他の研究者とディスカッションしたりする機会もたくさんいただきました。中でも3度の国際学会への参加は貴重な経験となりました。日本での学会と比べディスカッションがとても活発で、「こんなことができれば…」というワクワクする議論をたくさんしたことを覚えています。他にも、神戸大オープンキャンパスでの在校生代表として講演する機会をいただいたことも、良い刺激となりました。それまでも、学会発表などで研究内容についての考えは話したことがあったものの、自分自身の経験や考えを多くの人に伝える機会はなかったように思います。参加者の方々から様々な質問を受け、未熟な自分でも誰かに伝えられることがある、と自分の中での物事の見方が変わった出来事でした。

楽しい研究生活はあっという間に過ぎ、就職活動の時期を迎えました。大学で研究を続けることと迷った時期もありましたが、「人の健康に貢献したい」、「理論をモノにし、人に届けたい」という気持ちから、医療機器メーカーを志し、現在勤めるシスメックス株式会社の内定を得て喜びや希望の反面、就活で出会う先輩方が皆、夢を生き活きと語るのを見る度に「私はこんなふうにはなれないかもしれない」と漠然とした不安を抱いていました。自分の力で何ができるのか全く想像できず、自信がなかったのでしょう。

そんな不安を持って社会に出たものの、この5年間を振り返ってみると、抱いていた不安など早々に忘れ、いつも楽しく夢中で毎日を過ごしてきました。たくさんの良き仲間とモノづくりに挑み、技術を切磋琢磨するとともに、自分自身の中にやりたいことや興味あることが広がってきました。現在は主に、尿や血液中の成分

を分析する装置から得られたデータを解析した検査結果を求めるアルゴリズム開発に携わっています。「検査結果に異常がなければホッとすする」、あの気持ちを私たちが作っているという誇りを持って、日々仕事をしています。

楽しくやりがいのある仕事ばかりではなく、時には辛い仕事もあります。今年は、自分の中が空っぽになったように感じるほどの悔しさと虚しさを味わった仕事を経験しました。それでも数日後には、「誰もが使いたくなるようないいものを作ろう」と、また次に向かって進み始めていました。何度転んでも立ち上がることのできる打たれ強さが、エンジニアとしての私の強みのなだろうと思います。そんな私の強みにつながっているのは、仕事だけではなく、家族、学生生活、スポーツ、病気、出会った人々など、これまでのすべての経験です。

学生の皆様、これから経験するすべての物事や出会いを大切に、自分自身の力に変えていってください。そしてその力をエネルギーにして、また新しい経験をしてみてください。いざとなったときの自分を支えてくれるのは、うまくいった経験や何かを達成した経験だけではありません。地味で陽のあたらない経験こそが、自分自身を強くし、これからの人生を支えてくれると信じています。